http://www.shiminkatudo-hachioji.jp/gorakuren/

新年号　第２０９号
発行日　平成２１年1月1日（木・元旦）
発行所　八王子の碁を楽しむ活きいき連合
住　所　八王子市久保山町１－１４－３
ＴＥＬ　（０４２）６９１－１１０５
発行人・勝山　恭男
編集者・磯部　信広

碁楽連の目的

碁楽連は、八王子市内に居住する高年者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるようにその機会を提供し、高年者の福祉の増進に寄与することを目的とする。

年頭にあたって

碁楽連会長　勝山　恭男

新年、初詣をし、初日の出を拝み、お屠蘇やお節料理、年賀状などの祝いごとにふれますと、新しい生命（いのち）を授かったような悦びをおぼえます。

昨年は、碁楽連創立 20 周年にあたり、三〇〇人をかぞえる会員が一堂に会して、「記念式典･囲碁大会」が盛大に開催され、また『碁楽連 20 年史』が発刊されて、まことに有意義な年でした。さらに、活きいき囲碁地区大会には例年以上の大勢の方々が参加され、会員数も増加しました。碁楽連は、大きく前進しました。

今年は、碁楽連は創立 21 周年をむかえ、第三の十年紀にはいります。20 歳をこえた一人前の成人として、囲碁文化の普及に向かって、さらに充実した活動を展開してまいりたいと存じます。

さて、人間が生きているということは、まことに不可思議なことであると思います。一人で生きるのではなく、天地自然の恵みや多くの人びとのお蔭様で、活かされて生きています。この尊い生命を楽しく有意義に生きることは万人の願いです。

碁を打つということは楽しいことです。また、いろいろの事を教えてくれます。囲碁は一人で打つことは出来ません。必ず相手が必要です。相手と対局することによって、千変万化の幽玄の世界に遊ぶことが出来ます。これによって、囲碁は頭脳の活性化に役立つばかりでなく、「人間は一人では生きられない。人と人との関係が大切である」ことを悟らせてくれる上でも大きな役割を果たしてくれます。

幸い碁楽連には多くの仲間がいます。今年も、いま生きていることに感謝しつつ、仲間たちと共に和やかに碁を打つことを楽しみたいと期待します。

台町寿囲碁同好会の思い出　同好会だより

台町寿囲碁同好会　　三上靖宏

台町市民センターが平成８年４月に創設され、台町寿囲碁同好会が発足したのは平成８年５月１２日でした。碁老連会長（初代）の「熊崎さん」から電話を頂き、「台町にお住まいで、有段者なので、台町寿囲碁同好会に入って欲しい」とお願いされたのですが、その時はまだ定年退職１年前で会社に勤めていたのと、６０歳になっていなかったのでお断りしたのですが、台町寿囲碁同好会の立ち上げなので、５９歳でも良いからお願いしたいと何度も勧誘され、入会した次第です。

初代会長は「城石尚治」氏、総会員数は１４名でした。発足のため名簿上の会員がいた為か、例会への常時参加者は４～５名と淋しいもので、活気が無く、年々会員数も減少し、平成１２年には９名までになってしまいました。この間に会長が「倉田政治」氏に替わったのですが、ご家族の方から「お年を召しているので会長職は無理なので私に替わってやって欲しい」と懇願され、やむを得ず、会長を引き継ぎました。

また、平成１４年には本部役員担当の順番が来て、（当時は会長がその職に携ることになっていた）本部の役員になり、台町寿囲碁同好会の会長を「江口靖碩」氏に引継いで頂きました。

「江口会長」のお人柄と努力とで会員数も徐々に増え、同時に例会への出席者も増えて活性化され、平成２０年には４０名の会員数となり、碁楽連の中でも大所帯の方に属すまでになりました。会員増員には、高段者の方々が低段者や級位者の方達に並べ替えを含めた定石・手筋の指導、女性会員の勧誘、例会開催日のお知らせをプリントして会員に配布、同好会運営の役割を分担して行なうなど、全員で台町寿囲碁同好会を支えるようになったからではないかと推察しています。

今年の「活きいき寿囲碁大会」では他の支部からの出場者も増え、７４名の大会となりました。

当日は欠席者や連絡不足での参加者未登録等で対局票の書き換え作業に追われ、開始まで大混乱をしましたが、大勢の方に参加して頂いた事を喜んでいます。

発足当時は会員数が少なく大会を開催することも出来ず、由井寿囲碁同好会にお願いして合同で開催していた事を思い起こすと夢のようです。

名人位リーグ戦・天狗戦・王座戦、団体対抗戦への出場者人選、碁楽連会費の徴収、毎回の会場予約等々渋谷昭男会長を始め幹事の方々のご苦労には本当に感謝の気持ちで一杯です。台町市民センターには碁盤の数が３０面用意されていますので、会員数６０名を目標に更なる発展を願っています。

碁楽連創立２０周年記念特集

八王子教育長（代理、生涯学習スポーツ部長）他多数の来賓の臨席を迎えると共に会員２８０名有余の参加を得て、東浅川保健福祉センターで碁楽連創立２０周記念行事が開催された。

式典の部　午前１０時～１０時４０分　　司会者・三上靖宏

会　長　挨　拶　　勝山　恭男

（要旨）碁楽連は平成元年１１月初代会長熊崎正一様のご尽力により創立され、今年で２０年を迎えます。現在、市内の１２同好会が加盟し、会員４百人を超えるまでに成長しました。創立２０周を節目として、「躍進の年」と位置づけさらなる発展を期したいと存じます。

来　賓　祝　辞

教 育 長 代 理　　菊谷　文男氏

（要旨）教育委員会の立場としては碁楽連の発展を願うと共に、次代を担う子供の講習にも成果をあげられるよう期待をしています。

相　　談　　役　　三浦　浩氏

（要旨）碁楽連だよりに、プロの高段者による指導碁の記事があったが、プロは高段者から低段者まで時間があれば徹底して先を読む、アマには想像のつかない世界である。「アマチュアは、碁を楽しむべし」楽しんでこそ碁であり、交友を楽しみ人生を楽しんでいただきたい。私はそのための協力は惜しまないつもりです。

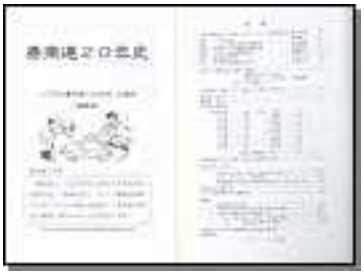
技術顧問会会長　　永安　浩二氏

（要旨）囲碁は、他の娯楽と違って武士道に通じています。武士は、美徳を主として生きており、その行動の道徳的なところが尊敬されていました。囲碁の普及は、道徳の普及でもあり、私の残された人生を囲碁の底辺を育てるべく尽力したいと思っています。

功 労 者 顕 彰　　熊崎　正一氏（初代会長）代理　熊崎　裕氏

記念品として盾と感謝状を贈呈

記 念 誌 贈 呈　　会員代表　田中　利孝



高齢者表彰 22 名（80 歳、85 歳、88 歳、90 歳以上）

被表彰者・富井栄・中島義彦・海老沢喜好・中村義作・山下則文・中田勉・安田実・大里宏・青木勇・二見武夫・川幡喜太郎・鳥井義一・山本淳三・新保禮次・横藤田正・安藤富夫・中岡誠・久保方宏・笹本梅吉・佐々木慶兆・松井豊・倉田政治氏（96 歳・最高齢者）

大会の部　碁楽連創立 20 周年記念囲碁大会結果　午前１０：５０～１７：００

参加者総数　259 名　段級別　７段 18 名、６段 32 名、5 段 20 名、4 段 45 名、3 段 33 名、2 段 39 名　初段 22 名　1 級 16 名　2 級 8 名、3 級 9 名、4 級以下 7 名。

運営　審判長・三上靖宏　競技委員長・斉藤隆男　競技委員・各地区同好会から 1 名（氏名別記載）対局　碁楽連方式　60 分　5 回戦　3 回戦まで全員参加　4 回戦準決勝　5 回戦決勝

第一組　18 名（7 段）

優勝　坂本勝雄 7 段/石川　　準優勝　吉澤　實 7 段/恩方　第 3 位　真田誠次 7 段/浅川

第二組　28 名（6 段）

優勝　吉田　旭 6 段/浅川→7 段に昇格　準優勝　川岸達雄 6 段/由井　第 3 位　花井進 6 段/由井

第三組　24 名（6 段～5 段）

優勝　松崎幸雄 6 段/川口→7 段に昇格　準優勝　笠原純吉 5 段/恩方　第 3 位　藤崎稔 6 段/北野

第四組　25 名（4 段）

優勝　中村順二 4 段/石川→5 段に昇格　準優勝　苫米地憲昭 4 段/恩方　第 3 位　斉藤健 4 段/恩方

第五組　26 名（4 段～3 段）

優勝　藤盛　茂 4 段/長房→5 段に昇格　準優勝　山本金昭 4 段/北野　第 3 位　宮崎誠一 4 段/中野

第六組　27 名（3 段）

優勝　高橋重二 3 段/元八→4 段に昇格　準優勝　佐々木慶兆 3 段/長房　第 3 位　佐々木胖充 3 段/由井

第七組　27 名（2 段）

優勝　山崎　臣 2 段/元八→3 段に昇格　準優勝　北原　正 2 段/浅川　第 3 位　海老沢喜好 2 段/浅川

第八組　24 名（2 段～初段）

優勝　辻日出男 2 段/川口→3 段に昇格　準優勝　市村光彦初段/石川　第 3 位　小久保捷朗初段/恩方

第九組　26 名（初段～1 級）

優勝　本橋　茂初段/台町→2 段に昇格　準優勝　菊地武雄初段/由木　第 3 位　本間邦夫初段/石川

第十組　24 名（2 級～7 級）

優勝　石賀正嗣 4 級/長房→3 級に昇格　準優勝　溝呂木久雄 2 級/恩方　第 3 位　中込義弘 2 級/長房

祝　賀　会　１７：１５～１８：０５

出席者　入賞者、本部役員、地区役員、実行委員、競技委員等

来賓　東浅川保健福祉センター館長　木下博文氏

技術顧問　山県永和氏

元碁楽連会長　真田誠次氏

元碁楽連会長　松田礼治氏

会の進行　望月実行委員会事務局長の司会により、勝山会長の挨拶、木下氏の祝辞　真田、松田氏の碁楽連に関する懐古談や期待などの話に聞き入り山県氏の発声による乾杯の後、賑やかな談笑のうちに副会長渋谷氏の謝辞、磯部理事の手締めをもって散会した。

参加者の声

川口会員

20 周年記念囲碁大会が成功裏に終了。役員に深甚なる敬意を表し感謝を申し上げたい。250 人 10 組という大会は全国的にも余り例がないものであり、事前の準備、当日の運営は並大抵のものではなかったと推察される。当日の参加費の徴収や組み合わせ作業は、無断欠席者もあって苦労があったのではないか。会費の徴収などは事前に地区会長にお願いするなど考慮してもよかったのではないか。このような大きな大会運営には参加者自身も協力するという体制が必要だなと痛感した。

技術顧問

記念誌の内容もよく出来ていて感心した。碁楽連も会員の増加や質の向上が見られ、顧問側もこの際変っていくことが求められているような気がした。

浅川会員

役員さんご苦労様でした。初代会長熊崎さんの子息裕さんも、お父さんの顕彰に喜んでいた様子で生前の会長を知っていた者として嬉しかった。

台町会員

役員が活発に動き、スムースに運営されてよかった。記念誌も立派に出来ていた。

石川会員

会場の設営では、兼務していたためか指揮者がいなくて手間取った。対局時計もいろいろ寄せ集めたようで使いづらいものがあった。駐車場については、陵南会場に余裕があるように思へたが如何だったか。

北野会員

運営に努力されていたのがわかったし、また参加者も協力的だった。２０年誌については、内容もよく文章も上手く書けていて読み応えがあった。

資料集めに苦労したのではないか。地区団体対抗戦の記録がなかったのは残念である。

弁当の世話はよく出来ていた。技術顧問の指導が熱心に行われていることがわかった。

長房会員

役員が一丸となって取り組んでいるのが印象的だった。そのため進行がスムースに出来たように思う。会長の挨拶もよかった。

記念事業の取り組み

碁楽連２０周記念事業実行委員会委員名

委員長　勝山恭男/石川　副委員長　真辺保幸/恩方　事務部門事務局長　望月成一/浅川　委員　杉渕清/由木　会計　渋谷昭男/台町　記念誌部門　編集長　磯部信広/中野　委員　三上靖宏/台町　渡辺己三男/由井　三浦和夫/元八王子　大会部門　競技委員長　斉藤隆男/由井　委員　石田利雄/大和田　端山昌夫/台町

記念大会関係

競技委員　田中利孝/浅川　山崎稔/恩方　佐宗源治/元八王子　六本木茂/中野　井出道明/大和田　水野義嗣/石川　小関真満/由井　高本衛/台町　穂積宏易/由木　刀根正樹/北野　佐藤要吉/長房　山本良宣/川口

会場係　岸村左/浅川　長尾昌彬/恩方　柳保治/元八王子　中村靖/中野　鈴木浩二/大和田　大山芳雄/石川　小野勝彦/由井　塩津浩/台町　奥山武平/由木　笠原昭治/北野　塚原和利/長房　山下健吾/川口

接　待　武発悦子/浅川　柳沢紘子/台町　望月洋子　真田文子

用具運搬　渕上和男　青木岩三　田中正勝　荒井正、以上恩方

碁道具の借用　碁盤・碁石　恩方、浅川、台町　時計　浅川、石川、台町、北野、川口

～報道関係～

八王子テレメデイア

取材協力員　牧野志津子氏

投稿二題

囲　碁　の　別　称

三浦　隆郎

囲碁には様々な別称があるが、その殆ど総てが中国の故事に由来するものである。手談と烏鷺と方円を除いてはインターネットで初めて知ったものだが、興味深いものがあるので、この囲碁だよりの紙面を借りて会員の皆様に紹介いたしたい。

[手談]一般的に良く知られているのは「手談」で、中国南北朝時代の小説集「世説」の中に記されている。碁友、碁敵と呼ぶ相手がいて、盤前に座って碁を打ち始めると最早言葉は要らない。盤上に石を下ろす手と手で相手と十分に話すことができる。銀座 2 丁目に女性が経営する「銀座手談」という囲碁クラブがあって、女子プロの初段が指導碁を打ってくれるので店の人気は高く、結構各界の碁好きの著名人が顔を出していた。

[坐隠（ざいん）]囲碁に夢中になって、盤にのめり込むような姿で座っている様子は、

いかにも隠者に通じるものとした別称である。世説に「王中郎は囲碁を以って坐隠となし、支道材は囲碁を以って手談となす。」と書かれている。

[烏鷺（うろ）]これも一般に耳にする囲碁の別称で、黒石と白石を烏と鷺に例えたものである。烏鷺の争いとも云う。元横浜市長飛鳥田一雄氏の秘書を務めた人が、碁が大好きで新宿に「烏鷺」という名の店を出していて、飲みながら碁を打てるクラブとして碁打ちには人気があった。マスターも客の碁を覗き込んでは楽しそうにしていた。

[方円（ほうえん）]本来は、古代中国で世界観を示す言葉であったが、正方形の碁盤と円形の碁石から囲碁の別称にも用いられるようになった。日本でも古墳時代の天皇の墓に「前方後円墳」というのがあって、世界観上での調和を表す形とされてきた。また現在、東京の麹町に、囲碁のイベントの企画運営や囲碁用品の販売を行なう「方円企画」という会社がある。明治時代にも方円社という囲碁グループがあって、日本の囲碁歴史の編纂に努めていたと聞く。

[爛柯（らんか）]如何にも難しい表現であるが、実に面白い別称が爛柯である。中国の普の時代に木こりの王質が山に入ったところ、童子達が囲碁を打っているのを見つけて、碁に見入っている間に自分が持ってきた斧の柄（柯）が朽（爛）ちているのに気付いた。王質は山から下りて村に帰ると、知っている人は一人も居なくなっていた。囲碁に没頭してしまったとき時間の経過を忘れるという故事で、碁打ちは誰でも身に覚えがある筈である。日本の浦島太郎の話に酷似していて興味深い。

[橘中の楽（きっちゅうのらく）]やはり中国の話で、橘（たちばな）の庭園を持っていた男が、あるとき霜が降りたあとで、橘の実を収穫した。最後に樽のような大きな実が二つ残り、それらを割って見ると、中に老人が二人ずつ入っていた。この老人達は、橘の実の中で碁を打って楽しんでいた。この話から囲碁は、「橘中の楽」とも呼ばれる。

私と囲碁との出会い

木島　洋治

昭和 6 年 2 月に私は、練馬区高松に生まれ父母や兄姉と共に、水戸市、甲府市、呉市、姫路市を経て旧満州は鞍山市そしてハルピン市（現在の中国の黒龍江省哈尔浜市）に辿り着いた。時に在満国民小学校 6 年生だった。ハルピン中学に入学し 2 年生の時に終戦を迎え各種の占領軍即ち、満州軍（関東軍）、国民党軍（蔣介石軍）、ソ連軍、八路軍（毛沢東軍）と目まぐるしく変り、戦後のドサクサにまぎれて、無政府状態と強盗、殺人、略奪、破壊を目のあたりに見せつけられ数奇の思いを体験した。翌年、ハルピンに参集した開拓団難民や地方都市よりの引揚者等数万人の日本への総引き揚げが実現し、私の姉、弟 2 名を含めて、大連港より帰国した。私は、父の強制留用の命令が下った為、残

った 6 人家族でハルピンに残ることになった。父の残留命令が下った理由は、ハルピン市の上水道大規模拡張計画が終戦のため中途挫折、中止となったのと、建設中の施設、資材が暴徒等により破壊、略奪になったためその復旧と完成を行うためであった。

強制留用から 7 年目にようやく帰国を許され、他の分野での技術者等と共に 2〜3,000 名程が、ハルピン、奉天、北京、そして上海へと汽車による長い旅が 2 ヶ月半位をかけて上海港から「高砂丸」に乗って祖国へ帰着し、舞鶴港より東京へ戻り着いたのである。帰国途中ハルピンで 1 ヶ月を過ごし、奉天（現在の瀋陽）で更に 1 ヶ月滞在と言う事で、一刻も早く帰国したい我々の中には、これでは軟禁ではないか、と騒ぐ者も多くなった。その時父は引率者に頼んで碁板と石を借りてきて、私に囲碁の手ほどきをしてくれる事となった。父が囲碁を以前自宅で客と打っていることは知っていたが、私には全く興味がなかった。暇にあかして毎日囲碁を習っている内に次第に興味がでてきた。これが私の囲碁との出会いとなり、奉天滞在中に、父の実力に相当近づいた感触を得た（６級位）。

東京へ戻ってすぐに大学受験準備に取り掛かったのだが、囲碁の方も時々楽しむようになり、大学に入学して囲碁部に入部するのを唯一の楽しみにしていた。ところが、入学してみると囲碁部は存在してなかった。当然ながら自分でポスターを大書きして、囲碁部員募集のために学内に貼って歩いた。集合指定日に当日の空き教室で待っていると、ヒヤカシ？の学生も含めて 2〜 30 人の学生が集まった。囲碁の経験年数を聞いてみると 1 年以下が殆どだった。当時の私の棋力は 3 級位と思っていたのだが、それより更に初心者が多いのかと少々 ” ウンザリ ” した気分だったが、取りあえず囲碁とは、こう云うものだと、皆を近くに寄らせて 1 局途中まで打って見せることにした。丁度、目の前に居た、今年入学したばかりの学生が、1 年以上はやっていたというので、その学生に６子を置かせて皆に打って見せたが、可なり相手も上手そうなのでその碁をくずして、今度は相手「定先」で打つ事にしてしばらく打ったが、やはり全く碁になりそうにないので中止し、話を、会費の事や、対局場、次回の日程等々を話してその日は散会とし、今日打った学生は残るように指示した。

彼の話を聞いてみると、彼は原田君という工学部の学生で、鹿児島県で高校生でありながら、県の本因坊での優勝者だったことが判明した。頭にきた私は「それを何故先に云わなかったか」と彼に強い調子で叱咤すると、彼は「私のことはご存知（有名だったので）だと思って居りましたので・・・本当に申し訳ないことをしました」と云い頭を深々と下げた。私は外地から帰国したばかりなので知るわけもないと言い、大勢の学生の前で油汗を流させられた。囲碁部は、その後強力なキャプテンを得て、大いに部員の棋力向上し他の大学囲碁部との対抗戦でも上位を維持した。

私は卒業後直ぐに就職し、碁の方はしばらく休まざるを得なかった。しかし、原田君は日立製作所に入社し、碁の方でも有名であったため、仕事と両立させていて、菊地さ

ん、平田さん、村上さん等と碁の研究を重ねており、当時の四天王の一人として活躍していた。その後彼は、アマ本因坊７回、アマ十傑戦を４回優勝している。今年の３月、囲碁界においては、秀哉賞と並んで最も重きをなす賞とされている「大倉喜七郎賞」を受賞し、アマでは３人目ということであった。本人は当然ながら私も我がことのように喜び、立派な友人を持ったことを誇りに思った。受賞記念式に参賀させて頂き、彼が挨拶の中で強調した言葉「年齢に関係なく趣味として、より多くの方々と囲碁を楽しむこと」に徹したいとの想いを更に強くしたいと思って居ります。

棋聖大賞囲碁大会の案内

開催日・平成２１年１月１８日（日）東浅川保健福祉センター午前９時１５～午後４時
参加者・碁楽連相談役、技術顧問、指導員、会長・理事、事務委嘱者、実行委員、地区同好会会長、同会長代理（または副会長１名）、研修部事務長、碁楽連７段以上の会員、碁楽連創立２０周年記念大会競技委員
通　知・参加該当者には、別途案内を差し上げます。

第７回理事会結果

日　時　平成２０年１１月２２日　９時から１０時
出席者　磯部、石田、渋谷、杉渕、斉藤
議　題　１、市民囲碁大会の結果について
　　２、技術顧問等に対する謝礼について
　　３、慶弔問題について
　　４、その他

編集後記

碁楽連創立２０周記念事業も終わり、新しい年を迎えることになりました。本年は丑年、スピードは遅くても着実に歩みを進めることができるよい年になればと念願いたします。編集を担当して１年が経ちました。この「だより」が碁盤と違った会員皆様の交流の場となればと思っていましたが、幸い投稿も数多く寄せられ、内容も豊かで楽しい紙面となったと思います。次号からは、新しい編集者によりこの「だより」が発行されます。今後ともご協力を賜りますようお願いします。ありがとうございました。なお、今月号から発行日を毎月１日といたしますのでご了承ください。　磯　部